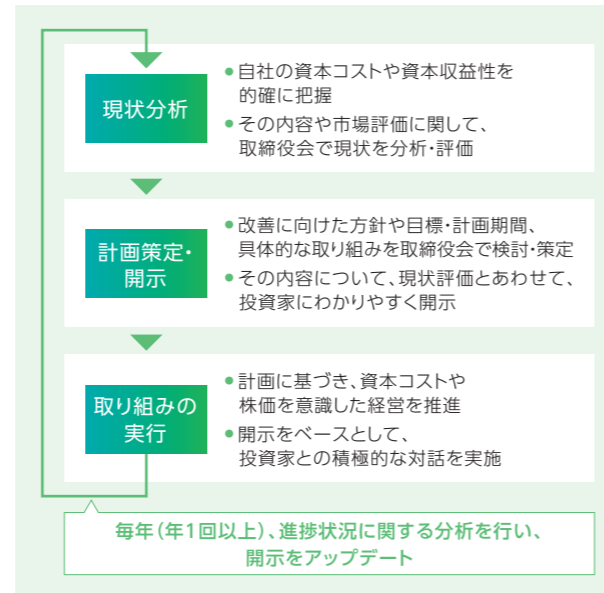


# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社では自己資本利益率 (ROE) や投下資本利益率 (ROIC) といった指標を用いて、資本収益性について現状分析するとともに、第六次中期経営計画の目標値として活用しております。

資本コストの把握ならびに市場評価を踏まえた現状分析、計画の策定などについては取締役会において議論を重ねており、さらなる企業価値向上を目指して資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて取り組んでおります。

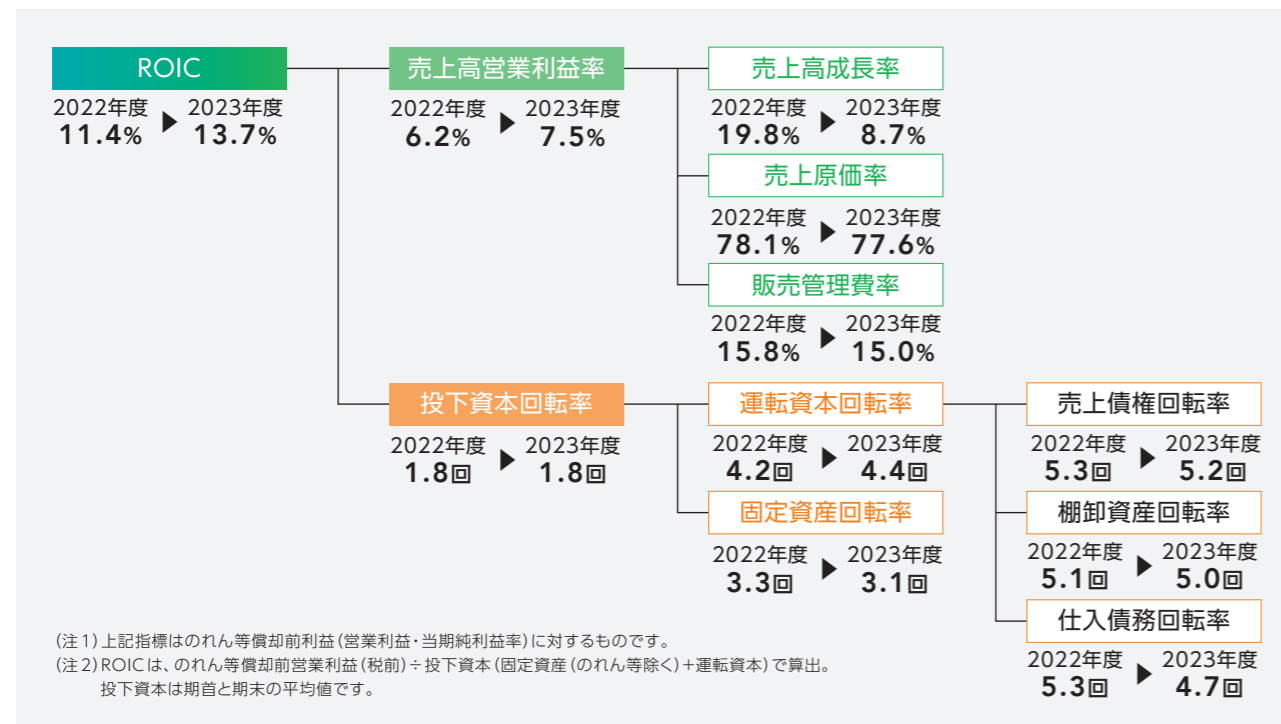
先般実施した増資の影響などにより、今後一時的にROEが減少する可能性があるものの、カーボンニュートラル実現に向けたグローバルな蓄電池需要の拡大機会を最大限に生かすべく成長投資を進めるとともに既存事業の収益力強化などにより、1株当たり利益 (EPS) を高めてROEを向上させ、中長期の目標達成に向けた取り組みや事業の成長性や将来性について、投資家と積極的に対話を行うことで、時価総額の拡大と株価純資産倍率 (PBR) 向上を図ってまいります。



出典:資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(東京証券取引所)

## ROICツリー

当社では、2023年度からの第六次中期経営計画においてROICを経営目標の一つに設定し、向上を目指しています。2023年度の投下資本回転率は横ばいとなりましたが、売上高営業利益率は、主としてHEV用リチウムイオン電池とESS用リチウムイオン電池の販売数量の増加や販売価格正の取り組みにより向上しました。この結果、全社のROIC数値は前年度の11.4%から13.7%へと上昇しました。車載用リチウムイオン電池事業では、成長分野への先行投資が大きく、年度によってバラつきがあるため、ROICは単年度の比較ではなく、中長期の推移で評価管理しています。



(注1) 上記指標はのれん等償却前利益(営業利益・当期純利益率)に対するものです。  
 (注2) ROICは、のれん等償却前営業利益(税前)÷投下資本(固定資産(のれん等除く)+運転資本)で算出。  
 投下資本は期首と期末の平均値です。

## TOPICS

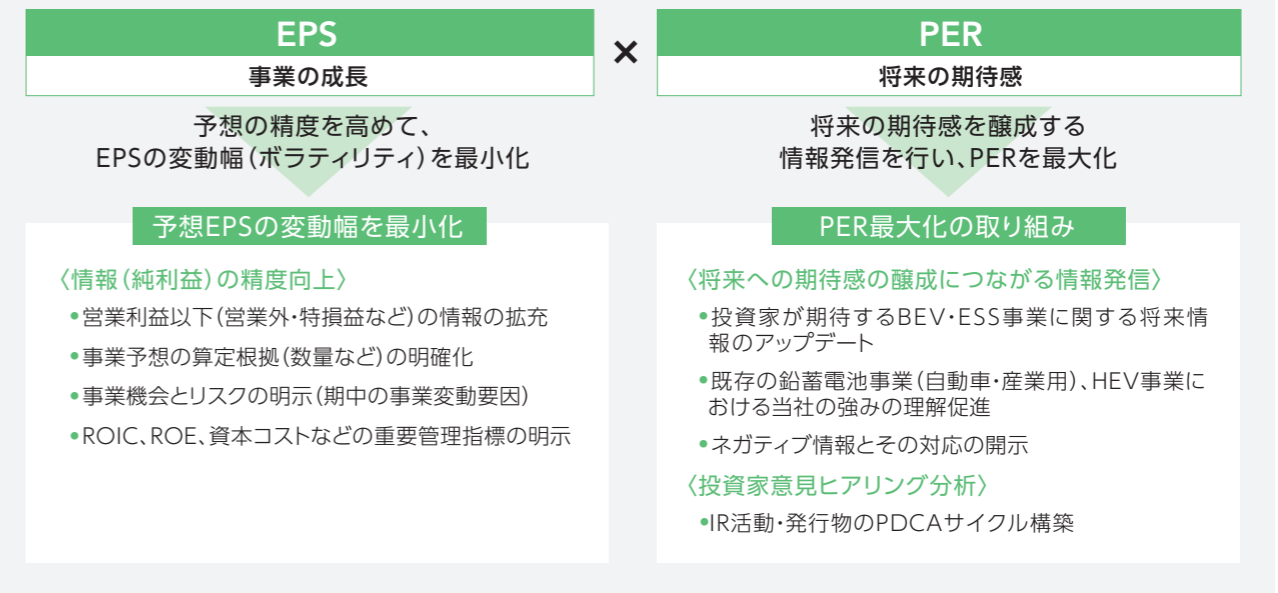
### 01 社内でのROIC経営浸透に向けた取り組み

階層別にさまざまな施策を通じて浸透活動に取り組んでいます。これまで経営層向けの勉強会を複数回開催したほか、社内メールマガジンでの情報発信も定期的に行っています。また、TQM活動を活用して浸透を図っています。2021年度からは、部門の年間計画を策定する際に、改善活動とROICを結び付けるように要請し、これを従業員の課題設定にまで落とし込んでいます。これによって、TQM活動による改善がROICにどのように影響するのかを一人ひとりが意識するようになりつつあります。今後も取り組みを継続することで、さらに社内啓発を図ってまいります。

### 02 株価向上に向けた施策

当社では資本コストの把握ならびに市場評価を踏まえた現状分析、計画の策定などについて取締役会において議論を重ね、さらなる企業価値向上を目指して資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて取り組んでおり、時価総額の拡大とPBR向上を図っております。

株価を構成する要素の1つであるEPSについては、カーボンニュートラル実現に向けたグローバルな蓄電池需要の拡大機会を最大限に生かすべく成長投資を進めるとともに、既存事業の収益力強化などにより事業の成長を図り、予想EPSの変動幅を最小化できるように情報精度の向上に努めています。加えて、中長期の目標達成に向けた取り組みや事業の成長性や将来性について、投資家と積極的に対話を行うことで株価収益率 (PER) の向上を図っており、株価向上に向けた施策に取り組んでいます。



## 参考データ

### PERと株価の比較



(注) PERはのれん等償却前営業利益に対するものです。

### PBRと株価の比較

